

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| |
|---|
| 連絡先 福井県農業試験場 病害虫防除室 Tel 0776-54-5100 FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp |
|---|

平成24年農作物病害虫発生予察予報第5号

7月の気象概況

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
気温は高く、降水量は少ないと予報されています。

[水稲関係]

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：進展期は7月2半旬、発病最盛期は7月下旬
被害程度：少発、ただし山間、山沿い、常発地では中発
発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

- (1) 散布剤での防除適期は初発の1週間後である。散布時期が遅れると防除効果が劣るので、注意する。
- (2) 薬剤を散布した圃場でも、新たな病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。粒剤を施用した圃場でも、病斑の発生が認められる場合は追加防除を行う。
- (3) 降雨続きの際は雨のやみ間を見て、雨のやみ間がない時は小雨の時にでも薬剤を散布し、防除が遅れないように努める。
- (4) 5月中旬以降の移植や直播栽培では、葉いもちの発生が多くなる恐れがあるので、特に防除を徹底する。
- (5) 葉いもちが多発している圃場では穂肥の施用を控えめにする。
- (6) 発生予察情報を参考に防除を行う。

病害虫名 早・中生穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発は8月1半旬頃
被害程度：少発
発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

- (1) 出穂直前と穂揃直後の2回、粉剤または液剤で防除する。特に出穂直前の防除は、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐために必ず行う。

- (2) 出穂直前の低温や、穂揃期以降に降雨が続くなど多発が予想される場合は、傾穂期に米分剤または液剤で追加防除を行う。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合は、雨のやみ間をみて、適期に防除を行う。
- (4) 穂いもちの予防粒剤は、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。穂いもちの見られる水田では、粒剤は施用しない。粒剤を施用した水田でも多発が予想される場合には、出穂期に粉剤または液剤で防除する。

病害虫名 白葉枯病

- 1 予報内容
 - 発生時期：初発は平年並みの7月中旬末
 - 被害程度：少発
 - 発生量：平年並み
- 2 防除対策
 - (1) 粒剤は穂いもちの防除を兼ねて、出穂3～4週間前に散布する。
 - (2) 常発地では窒素過多にならないようにする。

病害虫名 紋枯病

- 1 予報内容
 - 発生時期：垂直進展初期は平年並みの早生が7月3半旬、中晩生は7月5半旬
 - 被害程度：少発
 - 発生量：平年よりやや少なく、前年並み
- 2 防除対策
 - (1) 穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。しかし、倒伏すると進展しやすいので、倒伏が予想される場合は基準に達していなくても防除する。
 - (2) 8月上旬までに出穂する圃場では穂ばらみ期～出穂直前に薬剤を散布する。
 - (3) 粒剤を散布した圃場でも、発病株率が高く多発生が予想される場合には、粉剤、液剤による防除を行う。また、出穂前に粉剤、液剤を散布した圃場でも、降雨が続き多発生が予想される場合は穂揃期に追加防除を行う。
 - (4) 8月中旬以降に出穂する圃場で発生が多い圃場は7月下旬に薬剤を散布する。
 - (5) 散布時には、薬剤が株元の病斑によく付着するように散布する。

病害虫名 ニカメイガ

- 1 予報内容
 - 発生時期：第1世代成虫発生最盛期は平年並みの8月初め、第2世代幼虫加害初期は平年並みの8月2半旬
 - 被害程度：少発、局多発
 - 発生量：平年より多く、前年並み
- 2 防除対策
 - (1) 発生の多い所では、第1世代成虫発生最盛期から5日後頃までに防除を行う。
 - (2) 前年発生が多かった圃場周辺の窒素過多田、直播等熟期の遅い作型などで多発し、白穂、未熟粒や倒伏等の実害が出るので注意する。

病害虫名 ツマグロヨコバイ

- 1 予報内容
 - 発生時期：発生最盛期は平年より早い8月2半旬頃
 - 被害程度：少発
 - 発生量：平年より少なく、前年並み
- 2 防除対策
 - (1) 6月下旬の時点ではまだ発生は認められず、7月での防除の必要はない。

病害虫名 セジロウンカ

1 予報内容

発生時期：加害盛期は平年より早い8月2半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

2 防除対策

- (1) 7月中旬に1株当たり成虫が4頭以上、7月下旬～8月上旬に1株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は薬剤を散布する。

病害虫名 斑点米カメムシ類

1 予報内容

発生時期：成虫の本田侵入最盛期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より多く、前年よりやや少ない

2 防除対策

- (1) 水田周辺雑草地での増殖を抑えるため7月上旬までに除草を徹底し、カメムシ類の生息地をなくす。
- (2) 出穂期以降の草刈りはカメムシ類の水田内への侵入を助長するので注意する。
- (3) 粉・液剤での防除は、穂揃期～乳熟期と糊熟初期の2回薬剤散布を行う。
- (4) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が違うので注意する。(詳細は防除指針参照)
- (5) カメムシ類は、水田の周縁部に多く発生するので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。また、カメムシ類は、日中はあまり活動しないため、夕方か早朝に薬剤散布を行う。
- (6) 斑点米産出能力の高いホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどの発生が多い場合は、さらに収穫14～7日前にも防除する。ただし、使用基準を遵守する。

病害虫名 イネツトムシ (イチモンジセセリ)

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害最盛期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より多い

2 防除対策

- (1) 直播栽培において7月下旬の若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。
- (2) 葉色の濃いイネに産卵が多いので、注意する。

病害虫名 イネアオムシ (フタオビコヤガ)

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月5半旬頃

発生程度：少発、局中発

発生量：平年より多く、前年並み

2 防除対策

- (1) 過繁茂のイネでは多発生しやすいので注意する。
- (2) 山間や集落周辺など風通しの悪い地域や水田では多発生しやすいので、防除が遅れないようにする。

[ダイズ関係]

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや多く、前年並み

2 防除対策

(1) 葉の巻き始める若齢幼虫期に防除するのが効果的である。

(2) 山沿いの圃場での発生が多くなり、特に生育旺盛な圃場で集中的に被害を受けるので注意する。

[野菜関係]

| 野菜名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防 除 対 策 |
|------|--------|---------------|-------------|------------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発生量 | |
| スイカ | つる枯病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：多 | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーション散布する。 |
| | 炭疽病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：多 | 1)通風、排水をよくし、敷きわらを十分に 2)多湿を避ける。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーション散布する。 |
| | 疫病 | 最盛期： 7月下旬 | 少発 (局多発) | 平年：やや少 前年：並み | 1)排水をよくする。 2)予防散布を行う。 |
| キュウリ | うどんこ病 | 最盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：多 | 1)多肥栽培しない。 2)同一薬剤は連用せず、ローテーション散布する。 |
| | べと病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：多 | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、通風、採光をよくする。 2)肥料切れを避ける。 |
| ネギ | さび病 | | 少発 | 前年：多 | 1)肥料不足や窒素過多にならないようにする。 |
| 全般 | アブラムシ類 | 加害盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：やや多 | 1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |
| | ハダニ類 | 加害盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：やや多 | 1)対象作物により薬剤が異なるので注意する。 |

[果樹関係]

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防 除 対 策 |
|----------|-------------------------|--------------|-------------|---------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発生量 | |
| ナシ | 黒星病 | 最盛期 7月中旬 | 少発 | 平年：並み 前年：多 | 1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。 |
| | 黒斑病 | 最盛期 7月下旬 | 少発 | 平年：少 前年：並み | 1) 同一系統薬剤の連用は避ける。 2) 発病部位は除去し園外で埋設等適切に処理する。 3) 枝が込み合っている場合は剪定して風通しを良くする。 |
| | ハダニ類 | 加害初期 7月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：多 前年：多 | 1) 発生を確認したら早めに防除する。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| ナシ カキ | カメムシ 類 | 加害盛期 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：多 前年：多 | 1) 発生を確認したら早めに防除する。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| カキ | アメリカ シロヒトリ (第1世代) | 加害盛期 7月上旬 | 少発 (局中発) | 前年：やや多 | 1) 発生を確認したら早めに防除する。 |

[花き関係]

| 花き名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防 除 対 策 |
|-----|------------|---------------------|-------------|----------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発生量 | |
| キク | 白さび病 | | 少発 (局中発) | 平年：少 前年：少 | 1) 罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 日当たり、風通しを良くする。 3) 同一系統薬剤の連用を避ける。 |
| | アブラムシ 類 | 加害盛期 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1) 同一系統の薬剤の連用を避ける |
| | オオタバコ ガ | 幼虫加害 初期： 7月中旬 | 少発 | 平年：並み 前年：並み | 1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する 2) 同一系統の薬剤の連用を避ける |